

糞塊法

シカの個体数を調べる調査。固定のルートに調査員が歩き、左右50cm範囲の糞塊を全て数える。

あっ

●が10粒以上なら糞塊としてカウント。

下ばかり見ながら獣道を行くのは、はったりワマに合うことも!

シカが増えすぎた場所では、生態系のバランスも変化します。

ウグイスやコマドリといったササ、下層木を生活の場と利用する鳥達は減少。

食草の減少により、絶滅の危機に陥るウグイスやコマドリ。

どどーん

ニホンジカ 偶蹄目 シカ科シカ属
オスは50~130kg
メスは25~80kg
オスの角は毎年生えかわる。エソシカ、ホンジョウシカ、キョウジョウシカetc. 亜種

丸裸! 犯人はコイツ!!

ああ 苗木が

丸坊主

作: 平田美約子

Vol.5 陸害と向き合う巻

また、個体数調査により捕獲されたシカや狩猟者からの情報も重要です。

発信機を用います。

生体調査にはセンサーカメラやGPS追跡器を用います。

ライセンス法

固定ルートを車で走り、目撃したシカの数より個体数を調べる。

夜中の調査はライトを用いて光目を探す。気分はすっかりナイトサファリ!

とにかく人海戦術でシカを数える。区画法なんてのもあります。

After Before

貴重な高山植物に大きなダメージを与えています。

近年生息域は南マルプス等の高山帯にも拡大分布域の拡大にともない、農林業への被害も深刻化しています。

シカが増えすぎた場所では下層植生が丸裸になり、土壌の流出も。

シカが食べない植物のみ、裸地に

バイケイソウやマルバダケブキといった

シカが増えすぎた場所では、下層植生が丸裸になり、土壌の流出も。

きちんと食べるのが供養の供養です。いただきます!

そしてシカ肉は鉄分も双びじょーに美味しいのです。

シカは明治と昭和初期にかけての乱獲により個体数が著しく低下しました。

しかしシカの旺盛な繁殖力に加え、狩猟者の減少や暖冬による積雪量の減少、シカは大増殖してしまっただけです。

今度こそ適正な個体数をたもてる機、調査を続けると同時に、狩猟者の育成や捕獲したシカの活用方法を整備し、

防護柵(シカ柵)の設置

重機が入れない山の中では、杭を打ち込む作業も全て人力。

小規模な柵を多数設置するパッチフェンス→万が一シカが柵内に入っても被害を最小限にできる。

シカの首が届く2m位まで巻く。

樹皮防御ネットやテープの巻きつけテープは生分解成、ネットは再利用可。

長年育ててきた木が... せわかく植えた苗木が...

シカは国土のほぼ全域に生息し、個体数は30万頭以上分布域の拡大にともない、農林業への被害も深刻化しています。

食害から守るための様々な対策はとられています。